



たいりよく向上を

先月のことですが、休校になった1月25日、歩いて学校へ向かってみました。

災害時学校参集訓練に一人で参加といったところでしょうか。

積雪は10cm程度、12月のクリスマス寒波の雪と比べても多くはない。

ただ風は大変強く、冷たい風が頬を叩く。

傘を差すと風に飛ばされそうになる。

冷たい風を受けながら、吹雪の中、登下校した小中学生の日々を思い出した。

当時は、親の送迎など皆無で、歩いて登下校することが当たり前だった。

(唯一送迎があったのは、中2の時に左足首を骨折した時だった)

あの頃は、どんなに雪が降っても休校なんてなかったように思う。

ここ数年、大雪による立ち往生が多数起きてから、リスクを回避することを優先し、早めの対応として休校措置や国道・高速道路等の通行止めの措置がとられるのだろう。

ちなみに、私が高校受験の時は、いわゆる56豪雪の年で、1m以上の積雪が続いた。

ある日、3年男子はスコップを持ってくるようにと指示があり、スコップ片手に登校すると、先生から屋上の雪を下ろすように言われた。

「俺ら受験生ねんぞ」と小言をいいながらも、結構楽しんで雪下ろしをした記憶がある。

3年男子に雪下ろしをさせる先生も凄かったが、それに応える生徒もたくましかった？

今、56豪雪ほどの雪が積もり、屋上の雪下ろしをしなくてはならなくなったら、誰が下ろすのだろう。

校長と教頭？ 二人じゃ無理だ。かといって、3年生男子には頼めない。万が一の事故が心配。職員作業になるか、育友会や地域の方の協力をお願いするか、大人の力で行うしかない。

リスク回避は確かに大事だ。

だけど、リスクを回避しすぎて、雪国の生活に耐える力が衰えないかと小さなことが気になる。ただでさえ、冷暖房完備の生活が当たり前になり、寒さや暑さに対する耐性が衰えてきている。

走ったり、跳んだり、投げたりする体力も落ちてきているが、身体の耐性が弱くなると病気に対する体力（防衛体力）も落ちているのではと不安になる。

加えて、精神面での耐力も低下していないか心配だ。

「わんぱくでもいい、たくましく育てほしい」というCMが昭和の時代にあった。

令和の時代を生きる生徒に、屋上の雪下ろしをせよとはいわないが、多少の風雪や困難があっても、たくましく生きていく人であってほしいと願う。

生徒だけでなく私たちも「たいりよく（体力・耐力）向上」をはかっていきたいものですね。